

2011年3月20日

## 先遣隊の情報収集結果について

各位

東北大学と岩手大学は、東北地方太平洋沖地震津波災害の被災地における情報収集にあたる先遣隊を、以下の日程とチーム構成で派遣しましたのでその結果をご報告いたします。結果の詳細については添付ファイルをご覧ください。

### 情報収集日時

2011年3月18日～20日

### チーム構成および分担地域

- (1)岩手県（宮古市）、堺 茂樹・小笠原敏記（岩手大学工学部）
- (2)岩手県（宮古市、高浜・金浜、津軽石、山田、船越、大槌、釜石）、阿部郁男・今井健太郎（東北大学大学院工学研究科・災害制御研究センター）
- (3)宮城県北部（気仙沼市、本吉町、南三陸町、女川町、石巻市内）、越村俊一・郷右近英臣（東北大学大学院工学研究科・災害制御研究センター）
- (4)宮城県南部（仙台市、七ヶ浜町、多賀城市、塩竈市、松島町、東松島市、石巻市）、今村文彦、菅原大助（東北大学大学院工学研究科・災害制御研究センター）

### 津波災害実態調査を開始できるかという観点での考察

災害発生から1週間が経過し、被災地内の状況は救命・捜索活動から復旧活動に移行しつつある。一方、日本全国から研究者が訪れ大規模な津波災害の実態調査を展開するには、先遣隊が（調査の可否のための）情報収集した結論として、未だ不可能な状況である。その理由は、第一に被災地へのアクセスの問題である。現在、被災地への交通手段である高速道路の通行が緊急指定車両に限られており、被災地への連絡道路となる主要国道の通行も危険が伴うことが確認された。第二に、ガソリン・物資の問題である。被災地内外のあらゆるガソリンスタンドには被災者および生活者の皆様が列に並んでおり、その流通状況に好転の兆しが未だ見られない。「ガソリンや物資の供給がある程度落ち着く（被災者に行き渡るようになる）」という調査開始の意志決定に至る要件を満たしていないのがここ数日の現状である。東北各県において生活物資を購入することは、現在きわめて難しい状況である。さらに、福島第一原子力発電所における問題についても状況は流動的であり、最悪の場合、新たな被災者を生む可能性もある。

一方、津波災害実態調査を開始できるタイミングは近づきつつあり、学術目的だけでは

なくあらゆる側面において貴重な資料を収集するための迅速かつ効率的な調査計画を検討することは急務である。加え、津波被災地の空間的広がりにはきわめて広大であり、従来の調査手法だけでなく新たな調査技術と調査結果の開示方法を模索しながら調査計画を立案する必要がある。不十分な調査計画に基づく行動や、必要な安全装備を持たずに被災地に赴くことは非効率的であるだけでなく、調査者と被災者・生活者との間に様々なトラブルを生むことが懸念される。研究者と被災者・生活者および災害救援・復旧に従事するあらゆる関係者との信頼関係に亀裂が入ることは、絶対に避けなければならない。

### 今後について

先遣隊のメンバーもそれぞれが被災しており、大学の災害対応および個人の災害復旧活動と平行して被災地の情報収集活動を行うことが不可能になりつつある。そこで先遣隊は、今後皆様が調査計画を立案するための基礎資料となる情報を収集し、それを全ての関係者に開示・共有することを条件に、以下の4名に応援要請を出し、情報収集活動の拡充を図ることとした。

高橋智幸（関西大学・社会安全学部）

藤間功司・嶋原良典（防衛大学校・システム工学群）

後藤和久（千葉工業大学惑星探査研究センター）

情報収集活動は、今後被災地の被害全容の把握を第一義の目標とした津波災害実態調査の計画を立案し、被災地の負担になることを厳禁とし、複数の研究者が同じ地域を重複して調査することを避けるとともに、全ての被災地においての調査を実現できるよう、以下の項目について情報収集活動を行い、それを全て開示する。

- ・被災地のリストの作成と津波災害実態調査担当地域の明確化
- ・被災地における津波災害実態調査開始の見極めに関する情報
- ・調査の実施に必要な機器や安全装備の選定に関する情報
- ・被災地への外部からのアクセス手段の確認

上記4名の活動期間は2011年3月21日～23日までとし、その情報収集結果は、今後の調査計画立案の基礎資料として活用いただくため、全てを速やかに皆様に開示することをここに明記する。

2011年3月20日 先遣隊一同